

地域の防災力を強化するため、防災意識の啓発や図上訓練の実施などを通じて、平時から非常時を想定した支え合いの仕組みづくりを行います。また、避難に配慮を要する人が災害時に安全かつ確実に避難できるように、取組みを進めます。

取組みの方向性	具体的取組み
日常の備えから始める地域防災力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から家族や地域で防災について話をする。 ・地域で行われる防災訓練や研修に参加する。 ・地域全体の防災力向上をめざす。 ・非常時の災害ボランティアセンター運営のため、災害NPOなど多様な主体と、平時から連携体制を構築する。 ・図上訓練や防災に関する「出前講座」などを通じて防災への意識を高める。
避難に配慮が必要な人の避難支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から声をかけ合える関係をつくる。 ・地域住民等、支援関係機関と連携し、本人の事情に合った「災害時マイプラン」を策定する。 ・福祉避難所の実効性を高めるために開設訓練を実施する。 ・避難行動要支援者と近隣住民等がお互いに知り合う機会をつくる。 ・避難行動要支援者名簿登録制度の周知を進め、登録率を上げる。

Voice!

地域のみなさんの声

災害時の問題は、言葉の壁より孤立感。非常時につながりがない場所で孤独を感じるのは、みんな一緒です。日々あいさつを交わして顔を覚えてもらっている安心感が、非常時に生きるはずです。

久留米大学 外国語教育研究所 准教授

災害時は、こどもの居場所がないんです。平時から使えるこどもの居場所があれば、災害時も自然とそこに集まれるようになると思います。

雲遊寺



(写真:久留米大学 外国語教育研究所 准教授 ヒアリング時の様子)

災害時に、頼ることができる人がすぐ来てくれる地域だと安心。

中央圏域ワークショップ参加者

